

伊吹山觀測所報告

前田末廣著

14.6.2

182

6 7 8 9<sup>18</sup> 3 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9<sup>18</sup> 4

始



彦根測候所

伊吹山觀測所報告

14  
18

146-182

## 伊吹山觀測所報告

### 目 次

第一 伊吹山觀測所の設立に就て

第二 觀測所の位置

第三 設立に就て

第四 機械及ひ器具

第五 伊吹山氣象觀測成績

其 其 其 其 其  
五、四、三、二、一  
五 四 三 二 一  
月 月 月 月 月

三 二 九 二 五 二 一 一 七 三 二 九



其六、六月

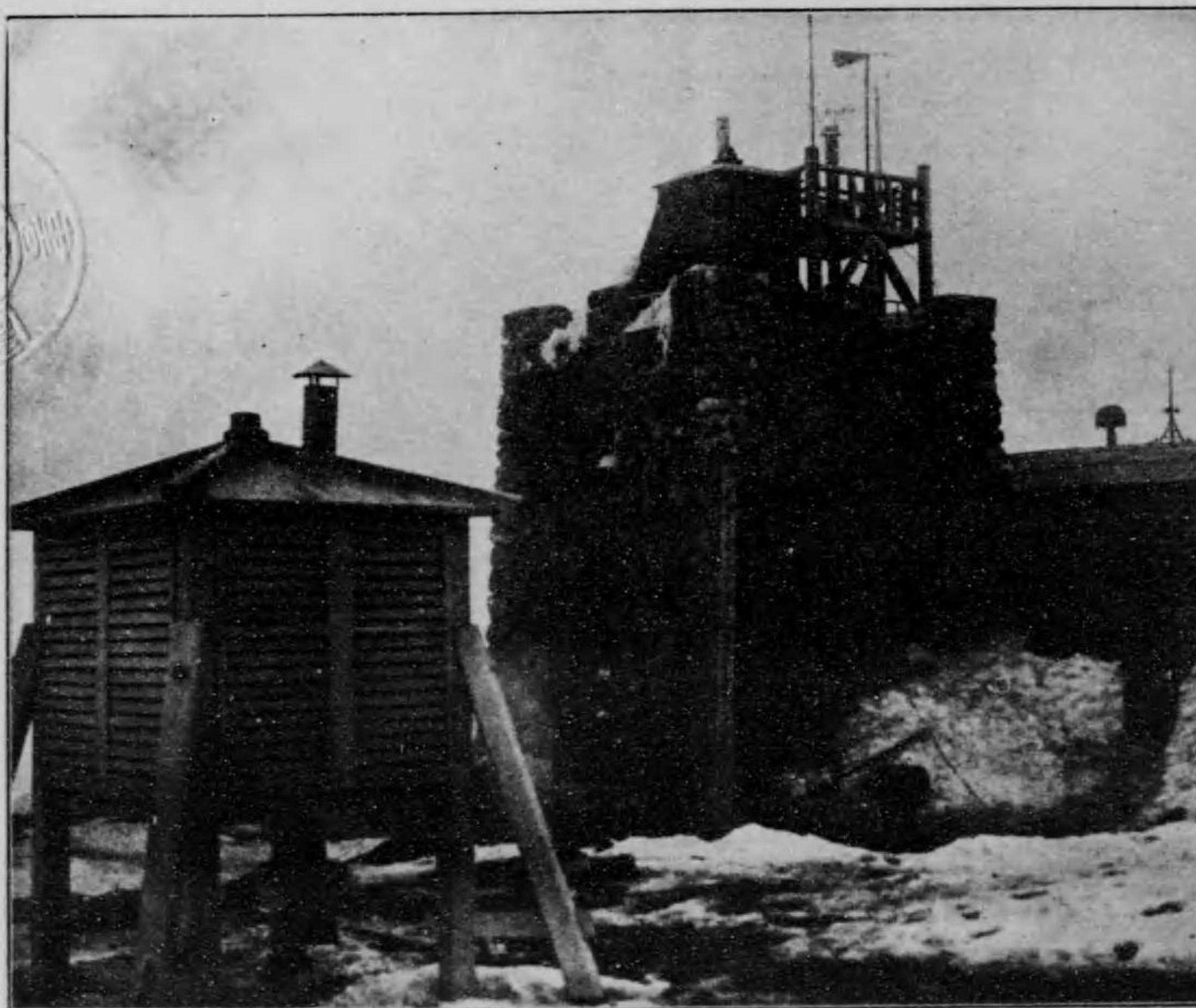
寫真版

觀測所寫真貳枚、外四枚

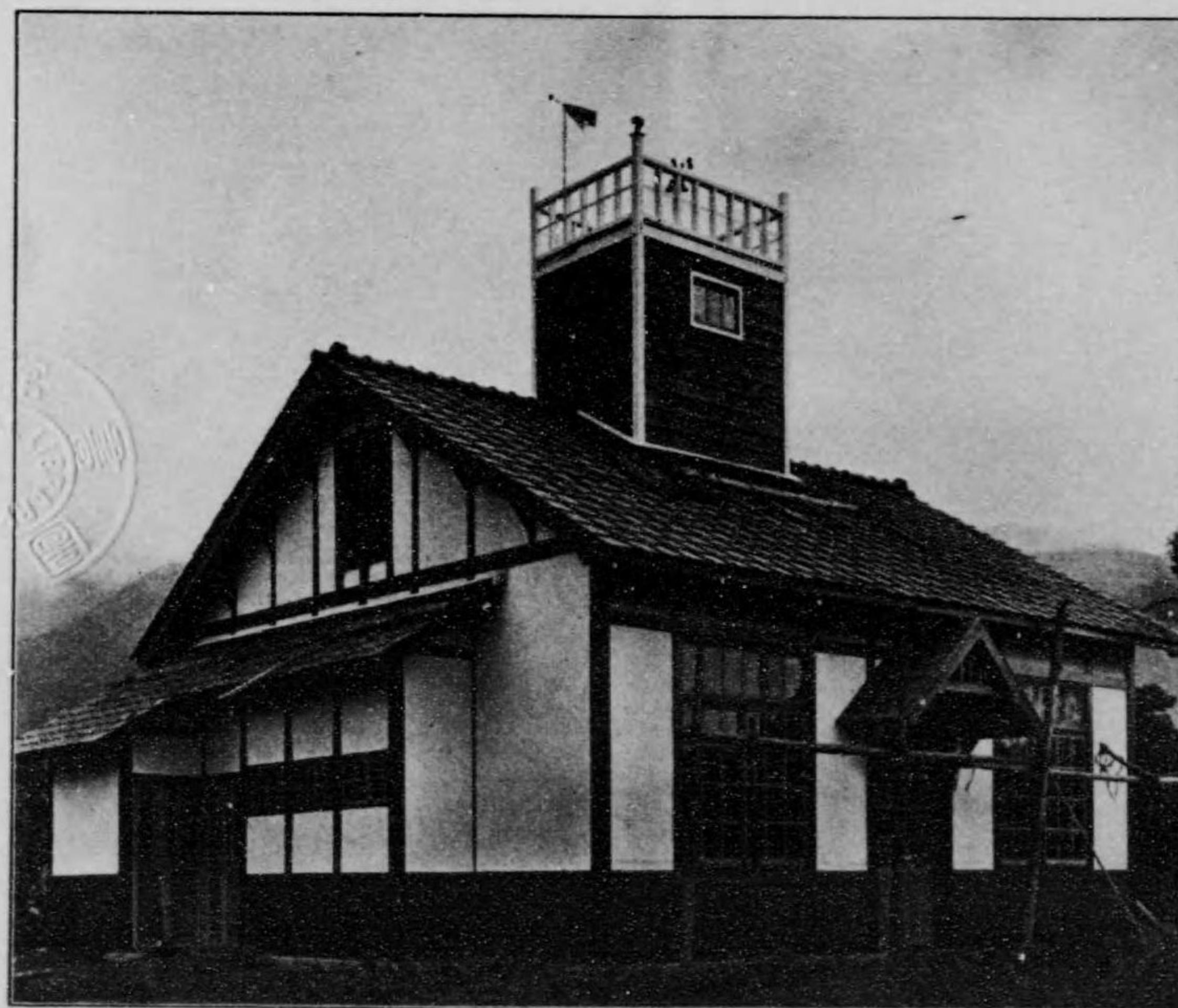
插圖

觀測所建物平面圖壹枚

三七



伊吹山觀測所



伊吹山麓觀測所



下關 隆正 森事 知縣賀滋前



滋賀縣知事堺義次郎次閣下

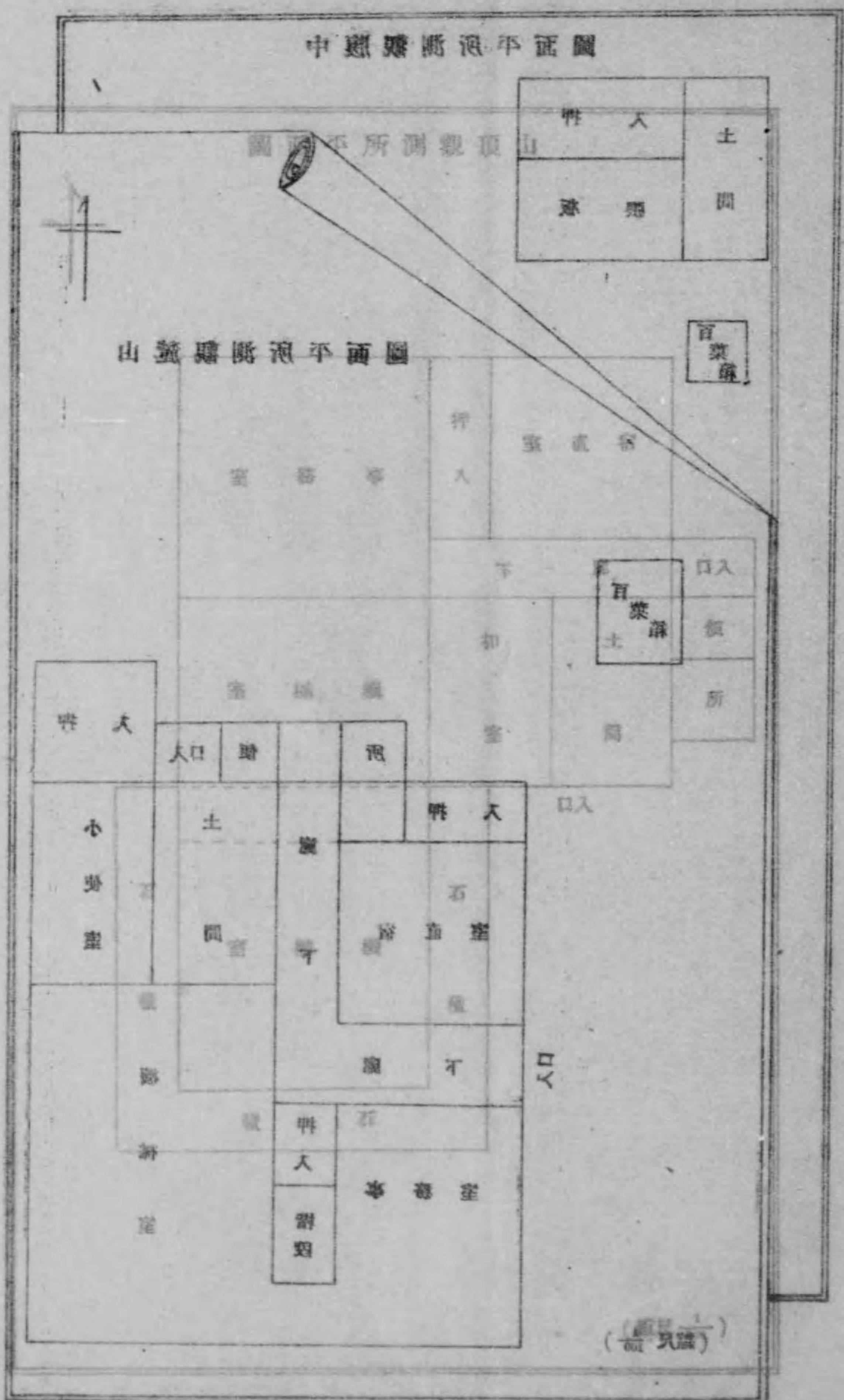


君平傳鄉下

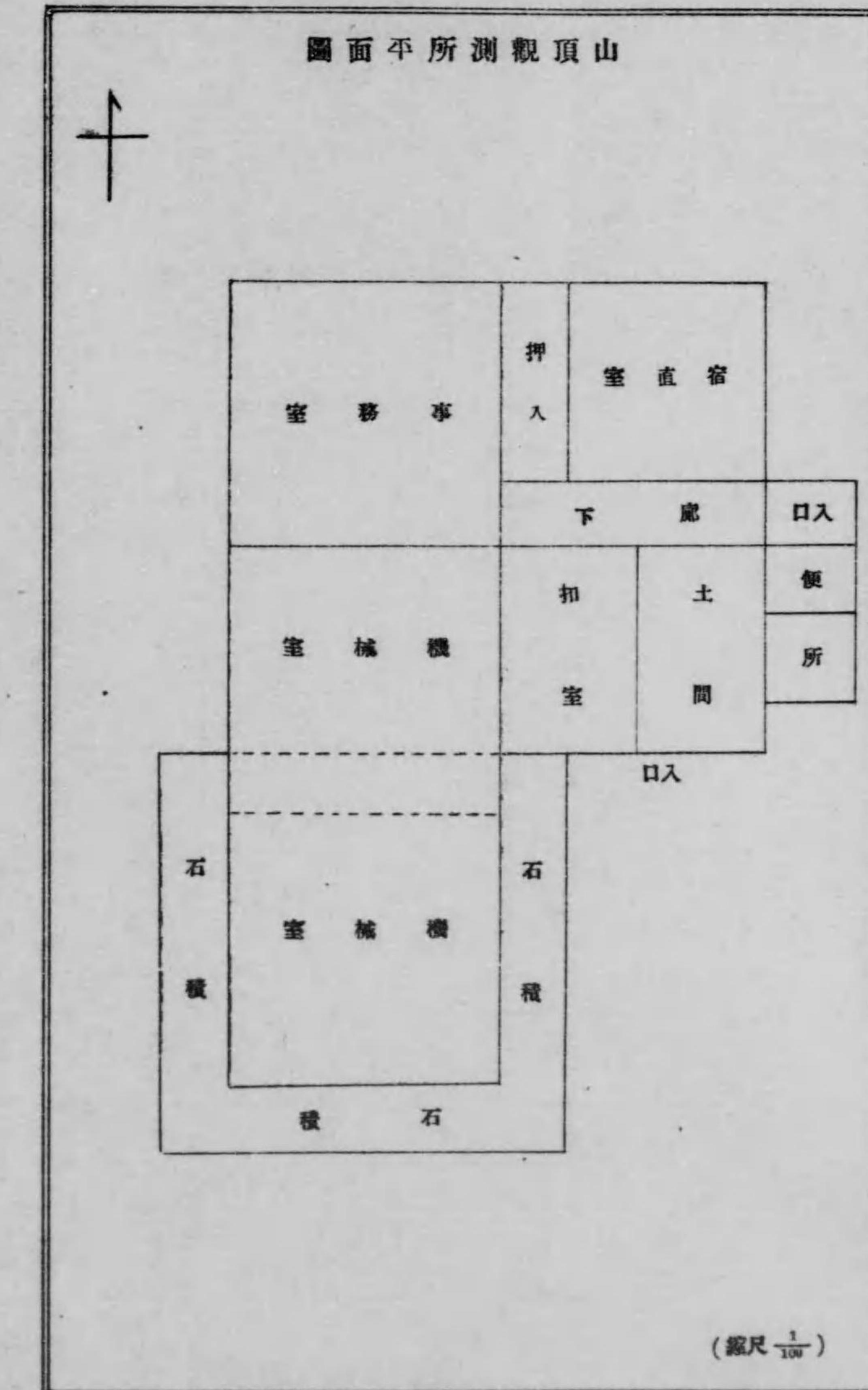
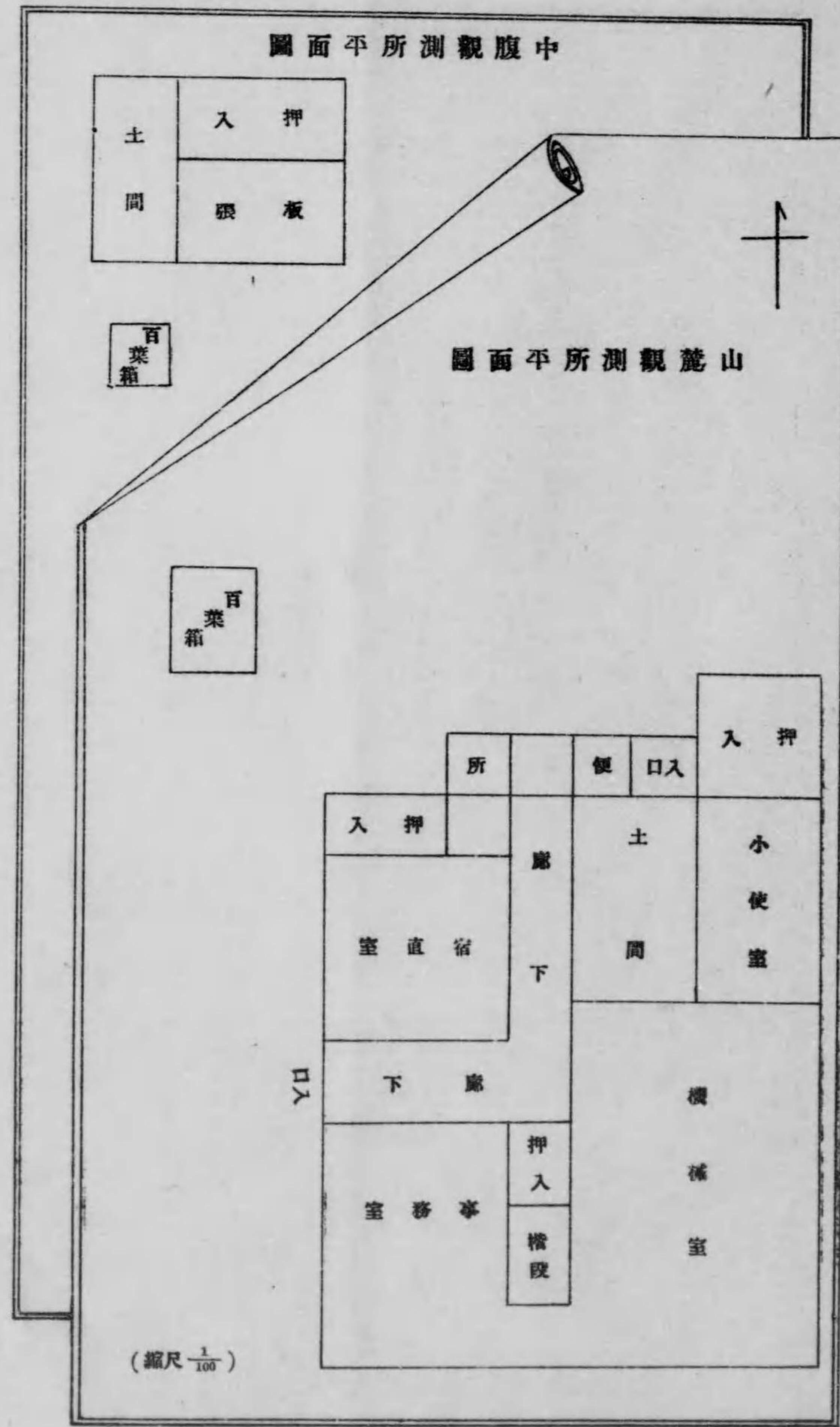


本山彦一君

伊闢圖面平西



伊吹山觀測所平面圖



# 伊吹山觀測所

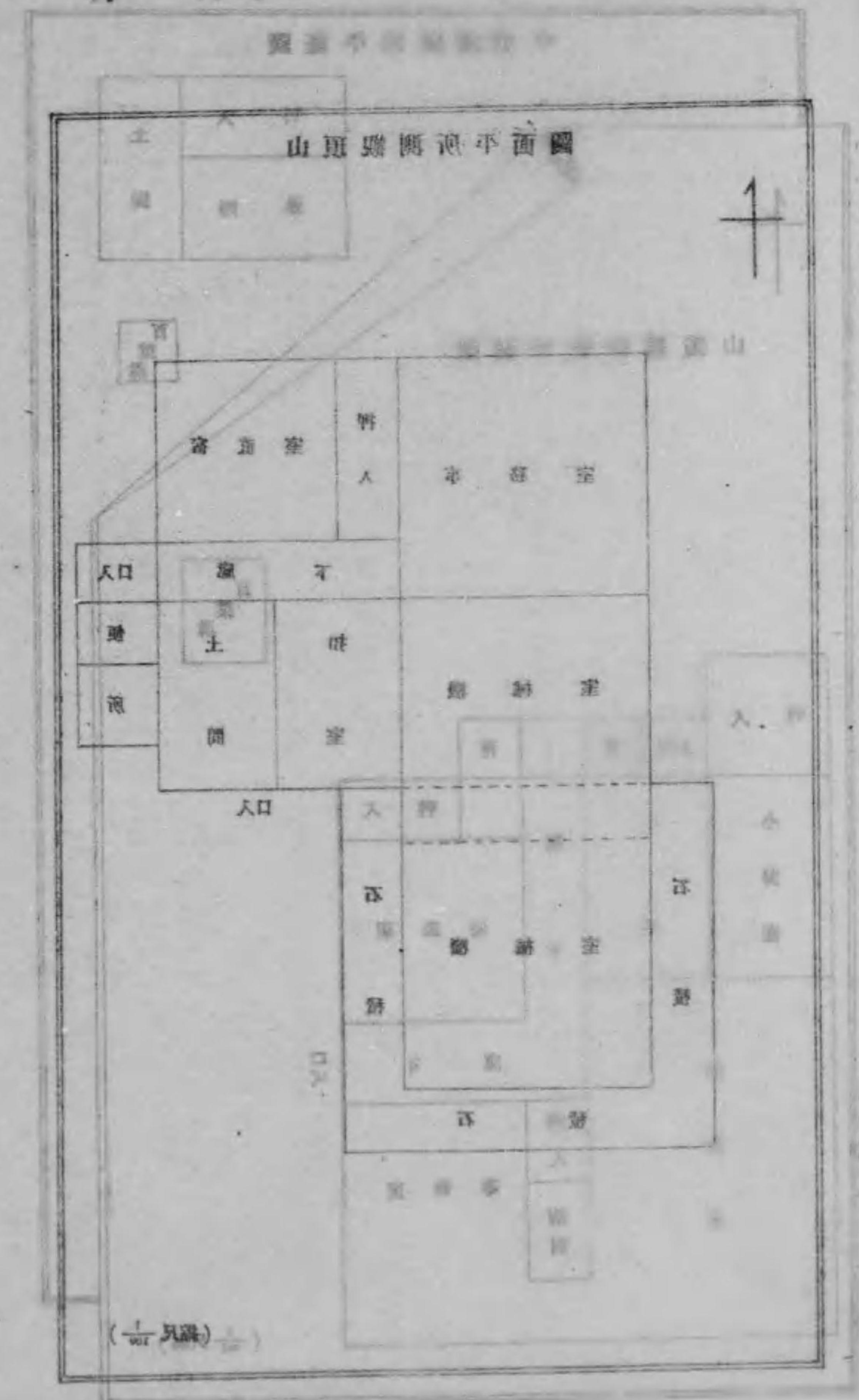
## 伊吹山觀測所報告

### 第一伊吹山觀測所の設立に就て

彦根測候所長 前田末廣

森前滋賀縣知事の大正六年暮本縣に赴任せられ、學術上は勿論軍事上及產業上氣象學の進歩發達を計る爲め伊吹山頂に高層觀測所設立の必要を唱道せらるゝや、縣下長濱町の富豪下郷傳平氏は大に此の舉を賛し巨額の資を投して之れか總ての建築物及器具機械一切を獨力を以て寄附せらる、氏が人格の高邁にして公益を計るの篤き今更こゝに陳々するを須ひす世間周知の事實なるも殊に此寄附の如きは我國學術上及其他に寄與する所大にして洵に奇特の行爲なりとす、而して大阪毎日新聞社長本山彦一氏亦之を賛し、大正七八年に於ける經常費を寄附せらる、これが建設工事器械の運搬登山道路の修理其他に付ては縣當局阪田郡長等を始め伊吹村春照村等關係郡町村の諸氏より多大の援助を得漸く茲に完成することを得たり、謹んで寄附者に對しが感謝の意を表し、且つ之れか建設に關し種々援助せられたる諸氏の厚意を謝す。

本事業は今後學界の爲め利する處大なるへく吾々氣象事業に從事するもの、欣喜措く能はさ



る處なるは勿論國家の爲め實に慶賀すべきことなり、今後科學の進歩に伴ひ此の空氣界の利用は益々廣大となり、其如何なる程度まで利用せらるゝに至るや測り知るべからず、此の空氣界利用の根元をなすものは氣象學にして其の氣象學の進歩發達は高層氣象の觀測に俟つにあらずされば能はざるもの多し、今日氣象學上未解決の問題少なからず此等を解決せんとするに於て高層に於ける氣象觀測の成績を要するもの多し、獨り學問のみならず應用氣象の上に於ても必要缺くべからざる事なりとす、歐洲戰亂に於て活動の中心たりし飛行機飛行船等は直に氣流の影響を受け潜航艇の如きは波浪の關係より何れも氣象との關係密接なるものなり、故に此等の進歩發達を計り機敏なる活動をなさしむるには須らく氣象研究の歩を進めざるべからず、如上の次第なるを以て高層氣象觀測所を設けて氣象の研究を爲すことは獨り學問上必要なるのみならず、國防上一日も忽諸に付すべからざる問題なりとす。

凡そ天氣の變化は高所より起るものなるに現今氣象觀測は殆ど地面上に限られ空中高所の模様は更に分明ならず、天氣豫報及暴風警報を發する材料としても上層氣流の觀測成績に依り研究するにあらされは解決し能はざるもの多し、歐米先進國に於ては既に平面上のみに於ける觀測材料を以て發する豫報警報の不完全なるを知り高層觀測所を設け高山觀測所を設立し日

日高所の氣象調査をなし一方學問上の材料を與ふると同時に一方豫報警報の材料に供し居れり、其設立後未だ數年ならざるに既に相當の好成績を得居れりと云ふ、實際氣象學は高層の模様剖明せざる間は決して進歩するものにあらずとは東西氣象學者の一一致したる説なりとす。

現今歐米先進國に於ける上層氣象觀測事業は實に盛なるものにして平地に在りて高層氣象を觀測する觀測所も多く、又高山の頂に設立せられたる觀測所も多々あり、殊に獨逸の如きは驚くべく盛大なるものあり、其のリンデンベルグの高層氣象觀測所は世界一と稱せらるることは平地に在りて高層の氣象を觀測する所なるが其設備を見て驚かざるものなしといふ、佛國トランブーの高層氣象觀測所米國ブリュヒル氣象臺等は共に個人の經費を以て設立せられたるものなるが實に有名なるものなり、又米國は先年獨逸リンデンベルグの觀測所に劣らざる程の大規模を以てマウントウエザーア氣象臺を設けたり、英國は本國は勿論英領印度にて風を用ひて高層觀測を始めたるに東洋の文明國を以て任する我國には此種の設備皆無なりとす、前記各所は平地に在りて高層氣象を觀測するものにして經費も亦多額を要するものなるを以て此種のものは實現せらるゝこと遲しとするも、比較的少額の經費を以て好結果を收め得らるゝ高山觀測所すらも我日本に於ては完全なるもの之なきなり、唯故山階宮殿下の御建設遊はされたる筑波山觀

測所(海拔八百七十米)あるのみ歐米先進國には此の高山觀測所實に多數にして現今にては二百個所許あり、獨逸のハルツ山脈中の高峰ブロッケンの頂(海拔千百四十二米)に設立したる觀測所は有名なるものなるか其建物は一部は觀測所にして一部は登山者のホテルに宛てられあり又獨のシコッペの觀測所(海拔千二百十七米)の附近にも登山者のホテルと共に建てられてあり何れも高さは伊吹山よりも低きも高山觀測所としては有名なるものなり、其他獨のツーダスピツチエ瑞西のゼーンチス塊國のゾンブレック米のタマルベ及ワシントン山等皆有名なるものなり、此多數の中立國のもの多しと雖も富豪の寄附になれるもの多く又地方費のものも多々あり、然るに我日本に於ては此の少額の經費を以て相當好結果を挙げ得られ得へき高山觀測所すら未だ一も之なしと云ふに至りては實に遺憾なりと云はざるべからず、至急完全なる高層觀測所及高山觀測所を設立して學問の資料を與へ各方面の應用を研究し歐米先進國に劣らず經營したきものなりとは斯學専門家の常に唱道する所なるのみならず各科學者の毎に熱望し居る所なりとす、果せる哉義に森本縣知事か伊吹山頂に觀測所設立の計劃あるを發表せらるゝや、斯學専門家にして書を吾輩に寄せ完成を熱望し來るもの少からず、又稱賛の辭を並へ來りたるもの多かりき、此の計劃の如何に科學界に熱望せらるゝかを知るに足る。

伊吹山は表日本と裏日本との堺にあり、其高さ千三百七十七米其附近これに及ぶの高山なく南東は濃尾の平野を見渡し近く伊勢灣の濱入りあり、南西は近江の平野を見下し琵琶湖眼下に横はり、北西は日本海近く迫り北東は美濃越前の堺なる大山脈に連亘すと雖も其山脈中に於ても十里以内に於ては伊吹に及ぶものなし、實に高山觀測所としては本縣に於て無比なるは勿論本邦中に於ても稀なる好個の位置にして種々の研究を爲すに便なる山なりとす、而して高さも決して低きに失せず彼の有名なる獨逸のブロッケン及シコッペの如き何れも伊吹山に比し六百尺も低し、佛國のビュイドームは伊吹山位のものなり、此の如く好個の伊吹山上に高山觀測所を設立し得たるは直接氣象學に貢献の甚大なるは勿論各方面の應用上の利益は大なるものなり。

前述の如く上層の氣象を觀測するに平地に在りて種々の器械を用ひて上層の氣象を觀測するものと、高山の上に觀測所を設けて觀測するものとあり。

平地に在りて上層の氣象を觀測するには風及氣球等を用ひるなり。

### 風を用ひる觀測

氣象の觀測に風を用ひることは歐米各國にては盛に行はれあり、通例風の大きさは六尺四方位

行燈形のものにして骨は木製寒冷紗を張る、これを揚ぐるにはビヤノの針金を用ひ、而して凧の中には軽く造りたる自記の氣象器を附着す、其凧を揚ぐるには電動力機を用ひ又近來は汽船に曳かせて揚ぐることも行はる、日本の如き風の強き國に於ては凧を使用するも便利なり、されど無風の日は之を揚ぐること能はず、又風の強きに過ぐるも同一の結果を生ず、頗る高く之を揚げんと欲する時は凧を何個も連ねて之を飛揚せしむるなり、先年獨逸のリンデンベルグにて六千四百米餘に揚げたる時は凧六個を連ねたり、凧揚は費用は割合に少きも絶えず行ふには矢張高山観測所よりは多額の費用を要するのみならず觀測し能はざる事柄多きものとす。

### 氣球を用ひる觀測

氣象の觀測に用ひる氣球に三種あり、一は自由氣球と稱し人の乗りて大氣中に浮ふものなり、此の氣球は乗手が氣象器械を取りて自記し得るもの、觀測もなし、又諸現象を實地に目撲し得るを以て、其效能は凧の比にあらざるも莫大的の費用を要するにより日々使用するを得ざるものなり、二は警留氣球と稱す形は種々あるが如きも弘く行はるゝは凧形氣球なり、こは索にて警留し置くものなるを以て凧及自由氣球の如く高所を調査すること能はず、比較的低處の氣象調査を行ふものにしてこれには自記氣象器を載せ置くものなり、これも日々行ふには多額の經費を要するのみならず風雨の時は勿論行ふこと能はず、又調査し得ざる事柄も多きものなり、三は探測氣球と稱し日本紙又は謹謨製の小氣球なり、之に自記氣象器を附して之を放つときは二三里も高き處に昇り破裂して落下す、而して其自記器は完全に落下すへき裝置あり、此氣球は比較的費用の僅少なるを以て日々使用することを得、晴雨共に用に堪ゆされど何處へ落下するか分明ならざるを以て落下したる處より通知なきときは更に其効なし、歐米諸國に於ては此通知者に相當の謝金を出し居るが如し日本の如き狹き國にして四方海にては此種の氣球は先づ使用すること能はず、此他に教導氣球といふものあり、これは小なる謹謨球にして之を放ちて其飛行く方向と速度とを測定するのみ、費用も僅少なれども效能も風の方向と速度とを見るに止まる。

凧氣球等にて觀測するは先づ是れ位の種類なるか、歐米先進國にては前述の凧氣球等の總てを使用して莫大の經費を投じ盛大に行ひつゝある觀測所多々あり、近頃英國は印度にて之を始めたりと聞く、然るに東洋の文明國たる日本に此種の設備皆無なるは心細き限りといふべし。

### 高山觀測

高山觀測と稱するは高層の氣象を觀測する爲めに高山の頂にて觀測を爲すものにして勿論凧又は氣球を用ひて觀測したる同高の空中とは自ら差異あるは明なり、然れども風雨の場合に於

て風及氣球にて観測すること能はざる時も高山観測所にては充分観測することを得るを以て甚た利益あり、而して風氣球にて観測するよりも經費の点も少額に止まるものとす。故に歐米各國に於ては近來多く常設高山観測所の設置を見る我日本に於ても各地の高山に観測所を設けて外國に劣らす。之が經營を爲したきものなり。今後は必ずやこれに續きて各地に設立せらるるべきを信するが伊吹山に第一に設立せられたるは實に痛快に堪へざるなり。吾々観測の任に當るもの細心の注意を以て綿密なる観測を行ひ以て寄附者援助者の厚意に酬いんことを期すへし。

## 第二観測所の位置

本観測所は山頂、中腹、山麓の三観測所より成る今其位置を記すれば左の如し

一、伊吹山観測所 山頂の観測所を伊吹山観測所と稱し近江美濃の國境なる伊吹山頂にあり、此の山は北は近江美濃の國境山脈に連なるも十里以内には此の山に及ぶの高山なく東西南の三方は平野近く山麓に迫り殆ど孤立に近き山なり、山は一合目以上には樹木なく、山頂は數町に亘り殆んど平地にして南東は太平洋を望み北西は日本海を見渡し、北は遠く甲信の諸山手に取るか如し、観測所は此の山頂平地の南東部にあり其観測露上の海拔及經緯度を記すれば左の如し

海抜	千三百七十五米五
北緯	三十五度二十四分五十五秒
東經	百三十六度二十四分二十八秒
海抜	百七十六米

一、伊吹山麓観測所 山麓観測所は山の南西方に當り山麓より直徑約十町阪田郡春照村大字春照にあり其観測露場の海拔及經緯度は左の如し

伊吹山中腹観測所 中腹観測所は山頂山麓両観測所を連ねたる一直線上殆ど中央にあり其海拔及經緯度左の如し

北緯	三十五度二十二分五十七秒
東經	百三十六度二十二分三十七秒
海拔	七百七十三米
北緯	三十五度二十三分五十八秒
東經	百三十六度二十三分四十三秒

### 第三観測所の建物

本観測所々属の建物は山頂十九坪五合六勺中腹三坪二合五勺山麓二十一坪二合四勺にして此の外に山上より山麓に達する電話線何れも下郷傳平氏の寄附になれるものにして其詳細は左の如し

一 山頂観測所	事務室	直室	機械室	宿室	土廊	押間	便観室	葉百計
	事務室	直室	機械室	宿室	土廊	押間	便観室	葉百計
	四坪	三坪	二坪	二合五勺	二坪二合五勺	一坪五合	一坪五合	一坪五合
計	十九坪五合六勺	五合六勺	七合五勺	七合五勺	一坪二合五勺	一坪五合	四坪	臺所



◎ 室内備品類

時	卓	電	長
二本立	ラ	圓	圓
火	火	平	平
手烙	鉢	池	池
湯湧釜(二丂煮)	鍋	箱	瓶
鍾	鉢	子	計
德	臺	子	
壺	鉢	子	
五	樂	計	
栓	火		
ヤ	大形		
ス	火鉢		
小道	火鉢		
ス	火鉢		
リ	火鉢		

◎ 事務用品類

貳	貳	貳	貳	貳	貳	貳	參	參	貳	貳	貳	壹	壹	參	參	貳	貳	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	
個	個	個	個	個	個	個	組	組	個	個	個	丁	挺	挺	挺	挺	挺	挺	挺	挺	挺	挺	挺	挺	挺	挺	挺	挺	挺

二、中央氣象臺より借入の分

提	燈	四
山岳用水銀晴雨計	自記晴雨計	張
ダインス式風壓計	自記寒暖計	
最高寒暖計	普通寒暖計	
最低寒暖計	地皮寒暖計	
積雪密度計	アスマン氏乾濕計	
保安器ヒューズ	クラインメートル	
五	貳拾個	
貳拾個	壹個	

◎ 農工具類

水	洗	十	火	炭	水	荷
面						
各	壹	個	個	個	個	桶
壹	壹	個	個	個	個	桶
壹	壹	個	個	個	個	桶
壹	壹	個	個	個	個	桶
壹	壹	個	個	個	個	桶
壹	壹	個	個	個	個	桶
壹	壹	個	個	個	個	桶
壹	壹	個	個	個	個	桶
壹	壹	個	個	個	個	桶
壹	壹	個	個	個	個	桶
壹	壹	個	個	個	個	桶
壹	壹	個	個	個	個	桶

◎ 室内備品類

時	卓	電	長
二本立	ラ	圓	圓
火	火	平	平
手烙	火鉢	池	池
湯湧釜(二丂煮)	鍋	箱	瓶
鍾	鉢	子	計
德	臺	子	
壺	鉢	子	
五	樂	計	
栓	火		
ヤ	大形		
ス	火鉢		
小道	火鉢		
ス	火鉢		
リ	火鉢		

# 第五 伊吹山氣象觀測成績

一時刻ハ中央標準時即チ英國緯度東經百三十五度子午

一氣壓、水蒸氣張力、蒸發量ハ耗ヲ以テ之ヲ示ス氣壓度、  
一攝氏、度ナ明ロ水銀以下、ノ寄成ナ付

一風速度ハ一秒時間ニ走リタル速サナ米(三尺三寸)チ

一  
降水量ノ率(三厘ニ毛)テ以テ其深サテ示ス

一日照時ハ時數ヲ以テ示シ其百分率ハ畫間可照時ニ對

一  
天  
氣  
日  
數  
中  
晴  
曇  
ノ  
區  
別  
ハ  
降  
水  
ノ  
有  
無  
ニ  
拘  
ラ  
ス  
雲  
量  
ニ

量零耗一以上アリタル日ナ云フ

一表中 × チ附スルモノハ缺測ニテ？チ附スルモノ

一都浪器梯ノ主要ナルモノ、位置左ノ如シ

一メーラン形乾湿球寒暖計 地面上

# 一 ロ ビ ン ソ ン 形 風 力 計

# 一雨量計及蒸發計

一地中寒暖計  
地下一分

一地震計  
一地面上  
芝草上二万

17

外二雜品四拾貳點  
外防寒衣靴力  
防深塞  
勘  
防  
菓  
防  
外  
鍋  
手  
雨  
並  
椅  
風  
蚊  
小  
卷  
メ

壹 壹 四 壹 壹 貳 貳 參 五 壹 壹 貳 貳 叁 六  
個 個 個 張 個 腳 腳 個 個 個 着 枚 足 足

# 其一、一月

**摘要** 気温は月平均冰点以下六度五、最高氣温の平均は冰点以下四度一、最低氣温の平均は冰点以下八度六にして之れを彦根に比すれば、平均に於て九度七の低温にして、恰も北海道に於ける糧室、紗那の氣温に似寄れり、月中の低極は二十一日の朝水点以下十四度九に降れるを極とす、風は非常に強く、月平均速度に於て烈風を示し毎秒十五米八を測れり、月中の最强は秒速三十八米三にして毎日殆ど暴風の吹かざることなく、遇々弱勢することあるも、其時間は半日位の間に過ぎず、月中の暴風時数は五百七十二時間に達せり、雲霧氣温水点以下四五度以上降るときは雲霧は冰結し居ること多し、又霧滴が冰結するまでの低温にあらざる場合に於ても、氣温水点以下にして風の強きときは其雲霧は樹木其他の露出せる物体に附着して結氷し霧水となる、山上の霧水は平地のものに比すれば極めて強固にして容易に破碎することを得ず、故に其附着甚しきときは電線を切斷し、屋外に露出する風力計、風信器等の運轉を不能ならしむる等被害少なからず、本月に於ても最も多く附着したるときは、風信器の鐵管に風の吹き來たる向に一尺五寸程も附着し、電線は直徑三寸餘に太りたることあり、山上は雲霧を以て覆はること多く、月の平均雲量は八・五に達し、濃霧時數は三百九十七時間を數へたり、此の如きか故に日照時間は僅かに五十三時間餘に過ぎず、湿度は九十五%に達せり

其他詳細は左表を見るへし

## 伊吹山氣象諸表

(一月)

第一表 伊吹山氣象全月の成績

半旬期	氣象					種目
	溫	較	最	平	氣	
月	六、一	六、一	六、一	六、一	六、一	平均
月	六、一	六、一	六、一	六、一	六、一	最高又は
月	六、一	六、一	六、一	六、一	六、一	同上日時
月	六、一	六、一	六、一	六、一	六、一	最低
月	六、一	六、一	六、一	六、一	六、一	同上日時
月	六、一	六、一	六、一	六、一	六、一	地中溫
月	六、一	六、一	六、一	六、一	六、一	總計
月	六、一	六、一	六、一	六、一	六、一	百分率
月	六、一	六、一	六、一	六、一	六、一	三粉
月	六、一	六、一	六、一	六、一	六、一	一粉
月	六、一	六、一	六、一	六、一	六、一	總平均
月	六、一	六、一	六、一	六、一	六、一	計
月	六、一	六、一	六、一	六、一	六、一	極度
月	六、一	六、一	六、一	六、一	六、一	同上日時
月	六、一	六、一	六、一	六、一	六、一	天
月	六、一	六、一	六、一	六、一	六、一	氣
月	六、一	六、一	六、一	六、一	六、一	日
月	六、一	六、一	六、一	六、一	六、一	數

第二表 伊吹山氣象半旬期の成績

半旬期	氣象					種目
	溫	較	最	平	氣	
月	六、一	六、一	六、一	六、一	六、一	平均
月	六、一	六、一	六、一	六、一	六、一	最高又は
月	六、一	六、一	六、一	六、一	六、一	同上日時
月	六、一	六、一	六、一	六、一	六、一	最低
月	六、一	六、一	六、一	六、一	六、一	同上日時
月	六、一	六、一	六、一	六、一	六、一	地中溫
月	六、一	六、一	六、一	六、一	六、一	總計
月	六、一	六、一	六、一	六、一	六、一	百分率
月	六、一	六、一	六、一	六、一	六、一	三粉
月	六、一	六、一	六、一	六、一	六、一	一粉
月	六、一	六、一	六、一	六、一	六、一	總平均
月	六、一	六、一	六、一	六、一	六、一	計
月	六、一	六、一	六、一	六、一	六、一	極度
月	六、一	六、一	六、一	六、一	六、一	同上日時
月	六、一	六、一	六、一	六、一	六、一	天
月	六、一	六、一	六、一	六、一	六、一	氣
月	六、一	六、一	六、一	六、一	六、一	日
月	六、一	六、一	六、一	六、一	六、一	數

第三表 伊吹山氣象六回の成績

第四表 伊吹山氣象毎日の成績

其二、二月

要 氣温は月平均冰点以下五度二にして彦根に比し八度九低し、最高氣温の平均は冰点以下二度三、最低氣温の平均は冰点以下十五度二を低極とす、山上に於ける氣温は平地に比すれば低温なるを普通となすも、山上に於ける氣温が平

## 第二表 伊吹山氣象半旬期の成績

### 第三表 伊吹山氣象六回の成績

伊吹山氣象諸表

# 第一表 伊吹山氣象全月の成績

地の氣温よりも高き場合も亦少なからず、此れを氣温の逆轉と云ふ、本月の十七日の朝及び十七日の夕より十八日朝に至る間は伊吹山附近の氣温逆轉を示し、伊吹山頂の氣温は平地に比し高溫にして其差最も大なるときに於て零度七の高温なりし、風は月平均秒速十六米七にして前月に比し稍々強く、月中の最强は秒速四十一米二に達せり、此の如きは彦根に於て氣象觀測開始以來既往二十五年間に於て未だ一回も觀測せしことなし、月中に於て暴風なき日は一日もなく、十七日の四時間是最少とし、月中の總暴風時數は五百三十三時間に達せり、雲霧本月は一月に比すれば雲霧少なく、月中の濃霧時數は二百四十八時間にして前月に比し百五十時間少なく、雲量は六・九にして一・七少なく、日照時間は百十四時間にして二倍を超へたり、此の如き多照は山上に於ける二月の現象としては益し稀なるものなるへし、而して霧氷の現象は十四日を數へ前月に比し七日を減せり、雨水月中に於て雨水五日を觀測せり、甚しき日に於ては風信器の鐵管は風の吹き來たる向きに約四寸の雨水を附着し恰も玻璃製の旗の如く、電話線は直徑一寸餘に太り、而して其被害は風力計の故障、電話線の切斷等霧氷の被害に劣らざりし

三月

第四表 伊吹山氣象毎日の成績

第四表 伊吹山氣象毎日の成績

日次	現象摘要												要
	平均	最高	最低	較差	水蒸氣	溫度	風速	風向	降水量	時間	天氣		
一 日	六四六.〇	六四六.八	一九.三	一七.四	一	三、六	九.四	北	一	一	快晴	朝霜午後日暉あり	現象
二 日	六四六.八	六四六.八	一九.二	一五.二	一	三、六	九.四	北	一	一	晴少雪	午前風雪甚し	現象
三 日	六四四.八	六四四.八	一五.九	一五.九	一	三、六	九.四	北	一	一	曇驟雪	午後日暉驟雪あり	現象
四 日	六四五.一	六四五.一	一八.七	一三.一	一	三、六	九.四	北	一	一	晴少雪	午前風雪甚し	現象
五 日	六四五.六	六四五.六	一三.七	一三.七	一	三、六	九.四	北	一	一	曇驟雪	午前驟雪あり	現象
六 日	六五〇.四	六五〇.四	一九.七	一九.七	一	三、六	九.四	北	一	一	晴少雪	午前風雪甚し	現象
七 日	六五〇.四	六五〇.四	一九.七	一九.七	一	三、六	九.四	北	一	一	曇驟雪	午前驟雪あり	現象
八 日	六五〇.七	六五〇.七	一九.七	一九.七	一	三、六	九.四	北	一	一	晴少雪	午前風雪甚し	現象
九 日	六五〇.六	六五〇.六	一九.五	一九.五	一	三、六	九.四	北	一	一	曇驟雪	終日濃霧午前午後霧冰あり午前微雪あり	現象
十 日	六四一.四	六四一.四	一七.二	一七.二	一	三、六	九.四	北	一	一	晴少雪	終日濃霧午前午後霧冰あり午前微雪あり	現象
十一 日	六四一.九	六四一.九	一九.五	一九.五	一	三、六	九.四	北	一	一	曇驟雪	終日濃霧午前午後霧冰あり午前微雪あり	現象
十二 日	六四六.四	六四六.四	一〇.三	一〇.三	一	三、六	九.四	北	一	一	晴少雪	終日濃霧午前午後霧冰あり午前微雪あり	現象
十三 日	六四〇.九	六四〇.九	一四.三	一四.三	一	三、六	九.四	北	一	一	曇驟雪	終日濃霧午前午後霧冰あり午前微雪あり	現象
十四 日	六四〇.九	六四〇.九	一〇.八	一〇.八	一	三、六	九.四	北	一	一	晴少雪	終日濃霧午前午後霧冰あり午前微雪あり	現象
十五 日	六四七.三	六四七.三	一六.四	一六.四	一	三、六	九.四	北	一	一	曇驟雪	終日濃霧午前午後霧冰あり午前微雪あり	現象
十六 日	六四八.七	六四八.七	一四.〇	一四.〇	一	三、六	九.四	北	一	一	晴少雪	午前濃霧午後薄霧午前少雪午前霧冰あり	現象
十七 日	六四九.四	六四九.四	一五.五	一五.五	一	三、六	九.四	北	一	一	晴少雨	午前日暉日光環あり	現象
十八 日	六四一.八	六四一.八	一四.五	一四.五	一	三、六	九.四	北	一	一	快晴	一	要

其三  
月

要 氣溫は月平均氷点以下一度四にして彦根に比し八度六低し、而して最高氣温の平均は二度一、最低氣温の平均は氷点以下四度五にして、月中の極度は二十三日の九度三を高極とし、三日の朝氷点以下十一度六に降れるを低極と

す、而して月中に於て氣温の逆轉三日を観測せり、即ち五日の朝、五日の夕刻より六日の朝に亘るもの、及二十三日の朝なりとす、其差最も大なる時に於て山頂の氣温は產根に比し二度餘の高温なりし、風は前月に比すれば稍々弱勢したるも尙平均風速は烈風にして秒速十五米八を數へり、月中の最强は六日の朝に於ける秒速三十九米四を最とす、

而して暴風時數は一月及二月よりも多く、月中の暴風總時數は六百一時間に達せり、雲霧本月の雲量は六・九にして前月と等しかりしも、晝間の雲量比較的少なかりしを以て、日照時間は百五十九時間を數へ前月に比し四十八時間多照なりし、濃霧は日數二十五日、總時數二百七十五時間を數へり、其中霧氷の現象ありたるは十一日なりとす、降水

本月の降水量は百二十四耗にして一般平地に比し僅少なりし、而して月中の降雪日數は十四日、降雨日數二十日を數へ其中雨水四日を観測せり

其他詳細は左表を見るべし

### 伊吹山氣象諸表

(三月)

第一表 伊吹山氣象全月の成績

		伊吹山氣象全月の成績					
種目		日	月	年	日	月	年
最高又は同上日時		午前十時	午後十時	廿五日	廿三日	廿二日	廿一日
最低		廿六日	廿五日	廿四日	廿三日	廿二日	廿一日
同上日時		廿六日	廿五日	廿四日	廿三日	廿二日	廿一日
總計		廿六日	廿五日	廿四日	廿三日	廿二日	廿一日
總平均又は		廿六日	廿五日	廿四日	廿三日	廿二日	廿一日
極度		廿六日	廿五日	廿四日	廿三日	廿二日	廿一日
同上日時		廿六日	廿五日	廿四日	廿三日	廿二日	廿一日

第二表

伊吹山氣象半旬期の成績

		伊吹山氣象半旬期の成績					
種目		日	月	年	日	月	年
最高又は同上日時		廿六日	廿五日	廿四日	廿三日	廿二日	廿一日
最低		廿六日	廿五日	廿四日	廿三日	廿二日	廿一日
同上日時		廿六日	廿五日	廿四日	廿三日	廿二日	廿一日
總計		廿六日	廿五日	廿四日	廿三日	廿二日	廿一日
總平均又は		廿六日	廿五日	廿四日	廿三日	廿二日	廿一日
極度		廿六日	廿五日	廿四日	廿三日	廿二日	廿一日
同上日時		廿六日	廿五日	廿四日	廿三日	廿二日	廿一日

第三表

伊吹山氣象六回の成績

		伊吹山氣象六回の成績					
種目		日	月	年	日	月	年
最高又は同上日時		廿六日	廿五日	廿四日	廿三日	廿二日	廿一日
最低		廿六日	廿五日	廿四日	廿三日	廿二日	廿一日
同上日時		廿六日	廿五日	廿四日	廿三日	廿二日	廿一日
總計		廿六日	廿五日	廿四日	廿三日	廿二日	廿一日
總平均又は		廿六日	廿五日	廿四日	廿三日	廿二日	廿一日
極度		廿六日	廿五日	廿四日	廿三日	廿二日	廿一日
同上日時		廿六日	廿五日	廿四日	廿三日	廿二日	廿一日
總計		廿六日	廿五日	廿四日	廿三日	廿二日	廿一日
總平均又は		廿六日	廿五日	廿四日	廿三日	廿二日	廿一日
極度		廿六日	廿五日	廿四日	廿三日	廿二日	廿一日
同上日時		廿六日	廿五日	廿四日	廿三日	廿二日	廿一日

第四表 伊吹山氣象毎日の成績

其四  
四月

**摘要** 氣溫は月平均四度にして彦根に比し、七度五低し、而して最高氣溫の平均は八度一、最低氣溫の平均は零度五を示せり、月中の極度は二十九日の十四度五を高極とし、一日の朝に於て冰点以下八度四に降れるを低極とす、而して月中氣溫の逆轉三日を觀測せり、即ち四月十九日朝、二十一日朝、及二十九日の朝なりとす、其差の最も大なりし

第二表 伊吹山氣象半旬期の成績

第三表 伊吹山氣象六回の成績

半旬期	氣壓	氣溫	溫度	風速度	雲量	日照時	降水量	觀測時	氣壓	氣溫	風速度	水蒸氣	溫度	雲量	降水量
至四月廿六日	六四五、四	五、三	一〇、五	二、〇	一、四	一〇、八	一〇、六	午前二時	六四五、三	四、八	一、五	七、〇	二〇、一	六、八	六、九
至四月廿七日	六四五、五	五、〇	一〇、二	一、八	一、八	一〇、八	一〇、七	午前六時	六四五、三	四、七	一、五	七、〇	二〇、一	六、八	六、九
至四月廿八日	六四五、二	四、五	九、二	一、七	一、七	一〇、八	一〇、七	午前十時	六四五、三	四、九	一、五	七、〇	二〇、一	六、八	六、九
至四月廿九日	六四五、六	三、〇	八、二	一、六	一、六	一〇、八	一〇、七	午後二時	六四五、三	四、九	一、五	七、〇	二〇、一	六、八	六、九
至四月三十日	六四五、七	二、〇	七、二	一、五	一、五	一〇、八	一〇、七	午後六時	六四五、三	四、九	一、五	七、〇	二〇、一	六、八	六、九
至五月一日	六四五、六	一、九	六、二	一、四	一、四	一〇、八	一〇、七	午後十時	六四五、三	四、九	一、五	七、〇	二〇、一	六、八	六、九
至五月二日	六四五、一	一、八	五、九	一、三	一、三	一〇、八	一〇、七	午後六時	六四五、三	四、九	一、五	七、〇	二〇、一	六、八	六、九
至五月三日	六四五、〇	一、七	五、八	一、二	一、二	一〇、八	一〇、七	午後二時	六四五、三	四、九	一、五	七、〇	二〇、一	六、八	六、九
至五月四日	六四五、三	一、六	五、七	一、一	一、一	一〇、八	一〇、七	午前六時	六四五、三	四、九	一、五	七、〇	二〇、一	六、八	六、九
至五月五日	六四五、六	一、五	五、六	一、〇	一、〇	一〇、八	一〇、七	午前二時	六四五、三	四、九	一、五	七、〇	二〇、一	六、八	六、九
至五月六日	六四五、六	一、四	五、五	一、〇	一、〇	一〇、八	一〇、七	最低	六四五、三	四、九	一、五	七、〇	二〇、一	六、八	六、九
至五月七日	六四五、六	一、三	五、四	一、〇	一、〇	一〇、八	一〇、七	最高	六四五、三	四、九	一、五	七、〇	二〇、一	六、八	六、九
至五月八日	六四五、六	一、二	五、三	一、〇	一、〇	一〇、八	一〇、七	平均	六四五、三	四、九	一、五	七、〇	二〇、一	六、八	六、九
至五月九日	六四五、六	一、一	五、二	一、〇	一、〇	一〇、八	一〇、七	氣壓	六四五、三	四、九	一、五	七、〇	二〇、一	六、八	六、九
至五月十日	六四五、六	一、〇	五、一	一、〇	一、〇	一〇、八	一〇、七	半旬期	六四五、三	四、九	一、五	七、〇	二〇、一	六、八	六、九

## 第二表 伊吹山氣象半旬期の成績

## 第三表 伊吹山氣象六回の成績

風速		水蒸氣張力		溫度		氣壓		種目	
向	度	差	低	高	均	壓	平均	最高及 強度	
北	北	四、一	四、八	七、五	一〇、五	八、一	四、〇	六四、五、四	同上
北	西	五、八	二〇、二	二六、八	一	一四、五	一	六三、二、六	午前十時
午後八時	十二日	廿二日	午後六時	十三日	廿九日	廿九日	廿九日	二二	同上
									最低
		一	三	六	八	四	一	六四、五	十一日
		廿八日	廿八日	十四日	一	一	一	午前六時	同上
		午後十時	午後十時	十四日	廿九日	廿九日	廿九日		
地中溫 (米)		時照日 百分率		雲溫 總計		蒸發量 度量		降水量 老	
三二一	粉粉	三二一	一	三	六	三	老	三七、二	種目
				五	五	五	老		總計
									平均及 強度
									極度
									同上
									天氣日數
地暴電暴霧霜雹雨雪降溫晴快 震風雷霧冰水 水 晴									
上閏三 降水廿 耗以時	十 度以上	最 高氣溫三 十五度以上	平 均氣溫二 十五度以上	最 低氣溫二 十五度以下	冰 點以下	冰 點以下	平均氣溫 冰點以下	平均氣溫 冰點以下	天氣日數
二	一	一	一	二	三	二	二	二	二

伊吹山氣象諸表

第一卷 何嘵以多參全月的風氣

は二十一日にして山頂の氣温は彦根に比し一度一高溫なりし、風は前月に比すれば稍々弱勢したるも尙月平均に於て強風を示し、平均秒測十四米一を測れり、月中に於て一日中全く暴風なかりし日は一日もなく、二十六日は最も彌かりしも尙暴風六時間數へたり、乍然月合計の暴風時數は前月に比すれば大に減少し、本月の總時數は四百八十五時間にして前月に比し百十六時間少なかりし、雲霧、雲霧は冬期に比すれば大に減少し平均雲量は六・二にして二月及三月に比し〇・七少なく、日照時數は百九十五時間にして三月に比すれば三十六時間、二月に比すれば八十一時間を增加せり、而して霧冰は僅かに三日を數へたるに過ぎず、降水冬期は吹雪甚たしきため正確なる降水量を觀測すること困難なりしか本月は最早降雪も少なく正確なる觀測を成し得たり、月總量は百二十七耗ニにして、彦根に比すれば二十六耗多く、吉櫻（伊吹山の北麓）に比すれば八耗四少なし、月中の降雪日數は四日を數へ、雨氷は一日もあらさりし

第四表 伊吹山氣象毎日の成績

其五  
五月

氣溫は月平均八度六にして彦根に比し七度五低く、恰も彦根に於ける二月下旬に相當せり、而して最高氣温の

平均は十二度六、最低氣温の平均は五度一を示し、月中の極度は二十日の十七度五を高極とし、十六日朝に於ける冰

三

点以下二度五に降れるを低極とす、月中氣温の逆轉三日を數へたり、即ち五月七日、十二日、二十四日の三日にして何れも午前六時前後に現はれ、其差は最も大なるとき於て山頂の方、零度四の高温なりし、風は前月に比すれば大に弱勢したりしも、尙月平均に於て強風を示し秒速十一米三を測れり、暴風も亦大に減少し全く暴風なき日二日を數へ、月中の暴風時數は三百九時間にして、冬期に比すれば半數に過ぎざるなり、雲霧は前月に比すれば大差なく、即ち雲量は六・五にして濃霧は二百四十時間を數へ、日照時數は百九十九時間に達せり、乍然此れを彦根に比すれば雲量は一・五多く日照時間は四十八時間の寡照なり、霧氷は一日を數へたるも何れも甚しからず、雨氷の現象は一日もあらさりし、降水量の総計は八十六耗六にして彦根に比すれば二十六耗七多く、伊吹山北麓なる吉櫻に比すれば三耗多かりし

伊吹山氣象諸表  
(五月)

# 第一表 伊吹山氣象全月の成績

第二表 伊吹山氣象半旬期の成績

### 第三表 伊吹山氣象六回の成績

第四表 伊吹山氣象毎日の成績

其六  
六月

摘要 氣溫の月平均は十二度七にして彦根に比し七度八低く、恰も彦根に於ける四月下旬に相當せり、最高氣溫の平均は十五度六、最低氣溫の平均は十度二を示し、月中の極度は七日の二十一度を高極とし、一日の三度八を低極とす。

而して本月は氣温の逆轉は一日も認めざりし、風は月平均秒速十二米二にして前月に比すれば零米九強かりし、暴風日數は二十八日にして、其最强は十三日の午后六時に於ける秒速四十三米九を最とす。此の如き暴風は彦根に於ては氣象觀測開始以來既往二十五年間に於て一回も吹きたることなし、月中の暴風時數は三百七十一時間にして前月に比すれば六十二時間多かりし、雲霧は非常に多く、即ち雲量は八・六を示し、前月に比し二・一多く、溫度は八十九%に達し、濃霧時數三百三十時にして九十時間多く、日照時數は百十九時間餘にして、前月に比し八十時間の寡照なりし、而して霧氷及雨水は一日あらざりし、降水量は百六十二耗ニにして前月に比すれば七十五耗六多く、彦根の六月に比すれば六耗六多く、伊吹山北麓吉根に比すれば六耗五少なし

其他詳細は左表に就て看るべし

### 伊吹山氣象譜表

(六月)

第一表 伊吹山氣象全月の成績

種目	平均	最高又は 同上日時	最低	半旬期		風向度	風速	水蒸氣強力	溫較差	最低	最高	氣壓
				高	低							
高	二十四	二	一	一	一	午前十時	一	一	一	一	一	一
低	二	一	一	一	一	午前六時	一	一	一	一	一	一
中	一	一	一	一	一	午后六時	一	一	一	一	一	一
高	二	一	一	一	一	廿二日	一	一	一	一	一	一
低	一	一	一	一	一	廿五日	一	一	一	一	一	一
中	一	一	一	一	一	廿六日	一	一	一	一	一	一
高	一	一	一	一	一	廿七日	一	一	一	一	一	一
低	一	一	一	一	一	廿八日	一	一	一	一	一	一
中	一	一	一	一	一	廿九日	一	一	一	一	一	一
高	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
低	一	一	一	一	一	廿九日	一	一	一	一	一	一
中	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
高	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
低	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
中	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
高	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
低	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
中	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
高	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
低	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
中	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
高	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
低	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
中	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
高	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
低	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
中	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
高	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
低	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
中	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
高	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
低	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
中	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
高	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
低	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
中	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
高	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
低	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
中	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
高	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
低	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
中	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
高	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
低	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
中	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
高	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
低	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
中	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
高	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
低	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
中	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
高	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
低	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
中	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
高	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
低	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
中	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
高	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
低	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
中	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
高	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
低	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
中	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
高	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
低	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
中	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
高	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
低	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
中	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
高	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
低	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
中	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
高	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
低	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
中	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
高	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
低	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
中	一	一	一	一	一	三十日	一	一	一	一	一	一
高	一	一	一									

第四表 伊吹山氣象毎日の成績



四二

大正八年九月一日印刷

大正八年九月五日發行

## 滋賀縣產根測候所

滋賀縣大上郡彦根町大字本百五拾八番屋敷

印刷者 石田慶次郎

全上

印刷所 石田活版所

電話一四〇番

廣雅

卷之二

四

五

六

七

八

九

大正八年九月廿日鑒書

大正八年九月廿日印譯



終

